

: . ° ☆。 , :: . ★。 , :*: . ° ☆。 , :*: . ° 。 , :*: . ° ☆。 , :*: . ★。 , :*: . °



みらいっうしん

3月号

2019年3月1日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長 長南 康子



: . ° ☆。 , :: . ★。 , :*: . ° ☆。 , :*: . ° 。 , :*: . ° ☆。 , :*: . ★。 , :*: . °

安心感に包まれて

水ぬるむ3月。陽の光や風の柔らかさに、春の訪れを感じる頃となりました。

みらいこども園の子ども達も、大人の温かな眼差しを感じながら一人一人が自分の歩みで確かな成長をしています。

先日、4歳・5歳児の子ども達が等々力公園へ遠足に出かけました。当日までに、おやつのお菓子を買って行ったり、公園で遊ぶボールや縄跳びを準備したりして、とても楽しみにしていました。歩いて片道50分ほどの長い道のりでしたが、手をつないで並んで歩くことも身に着け、足取りも確かなものでした。現地では、広い公園を貸し切り状態で使い、友達と関わりながら、体を思い切り動かして遊びました。

待ちに待ったお弁当の時間です。グループでかたまっ、皆、美味しそうなお弁当を誇らしげに食べ始めました。その時、ふっと感じた思いがありました。それは、その場の空気の何とも言えない落ち着き感でした。もちろん、「水筒のお水がこぼれちゃった!」「〇〇がない!」「トイレきた〜い」「転んじゃった、血が出た!」といういろいろ子どもにとっては大変なことが起きていました。しかし、場面、場面で、保育者や友達が「大丈夫だよ。」という気持ちで、その困り感に心を寄せて、付き合っている姿がありました。その安心感、安定感が自然にその場の空気をつくり、心地よさを醸し出していたのかなと思います。

そして、帰りの道で「もう歩けない!」としゃがみ込む4歳児もいましたが、訴える先は保育者ではなく一緒に手をつないでいるペアのお兄さんにでした。先輩は「ほら、もう少しだからがんばって!」と、もう大変という気持ちが表情には出ていましたが優しく励ましていました。人を信頼し、人から信頼される関係も子ども同士の中で育っていることが分かります。

また、Aちゃんに声を掛けられて、公園の隅に行くとAちゃんは「わたし、“みらいちゃん”描けるよ!」と小石を手に地面に“みらいちゃん”を描いて見せてくれました。出来るようになったことを一つずつ実感するという積み重ねが大事なことです。それは、大人が無理をして仕向けるのではなく、子どものこうしたい、こうなりたいという気持ちに根気強く付き合い『待つ』ことで、花開いていくのだと思います。

一人一人の心身の育ちが集団の落ち着きをつくりだしています。園生活の中で、一人一人が自分の好きなことを見つけられること、集団の場で、自分が安心していられる場があること、このことが乳幼児期にふさわしい生活といえるのではないかと考えます。家庭の中でも、どのような環境の中においても子どもにとって必要なことは安心感に包まれていることなのではないでしょうか。

『ここにいってもいいよ 自分らしくて いいよ』とみらいの風が歌っています。

大きくなりたい子ども達に春の光が柔らかく注いでいます。



全員で「だるまさんがころんだ」
楽しさに満ち溢れていました。



地面に描かれた
みらいちゃんの絵



(長南)